

～今月のテーマ～

# 雪の匂い

National  
Parks  
of Japan



利尻礼文  
サロベツ  
国立公園  
だより

今年は本格的な降雪が遅く、なかなか根雪になりませんでした。しかし、今ではすっかり一面の銀世界に変わり、雪化粧した利尻山に、どこまでも遙か続く雪原が広がっています。銀世界に変わる前の厳しい寒さの中にも、この地にしかない冬の凛とした美しさがあります。

—その自然には、物語がある—

2022/1 Vol.13

## 利尻島 雪の妖精

冬の巡視は厳しい寒さや風雪で辛い時も多いですが、たまには嬉しい出会いに遭遇します。しんとみぞれが降る中、シマエナガに出会いました。出会いはたった数秒間の出来事で、観察したい気持ちとはうらはらに振り向いてももらえず... それでも季節の移り変わりや、この地で暮らす生き物との出会いを楽しみに、今日も寒空の下、巡視に出かけます。

撮影・文：黒田芳人  
(国立公園管理官)



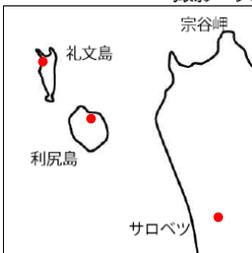
## 礼文島 冬はいずこへ

12月初旬に積もった雪もすっかり溶けて、景色が少しだけ秋に戻ったようになりました。それでも季節は真冬に入る12月。海にはシノリガモ、空にはオオワシといった冬の使者が訪れ、そして白い利尻山の姿が見えます。あとは、一面を銀世界に変える雪を待つだけです。

※写真を撮影した一週間後には、一面真っ白になりました。  
撮影・文：津田涼夏 (礼文島アクティブレジャー)

## サロベツ 自然界の創造

気がつけば12月。日々の気温も氷点下になり、ようやく冬の道北らしさが出てとてもしばれます(北海道の方言で厳しく冷え込むこと)。夏は穏やかだったパンケ沼も季節風で波立っていて、湖岸の枯れ草はしぶきがかかっては凍りを繰り返して、氷の中に閉じ込められていました。氷に閉じ込められた枯れ草は地面から氷柱が生えているようで、とても不思議な光景でした。  
撮影・文：福井翔太 (サロベツアクティブレジャー)



—今回の撮影場所(撮影日)—

- 【利尻島】 姫沼園地  
鶴泊港フェリーターミナルから車で10分(2021.12.6)
- 【礼文島】 ゴロタ岬  
香深港フェリーターミナルから車で30分(2021.12.8)
- 【サロベツ】 パンケ沼園地  
JR下沼駅から車で5分(2021.12.15)

### 「利尻礼文サロベツ国立公園だより」とは

日本最北の国立公園には公園管理を行うスタッフが5名、利尻島・礼文島・サロベツの各地域で働いています。そんなスタッフが季節ごとのとっておきを皆様にお届けします。

発行：環境省 稚内自然保護官事務所